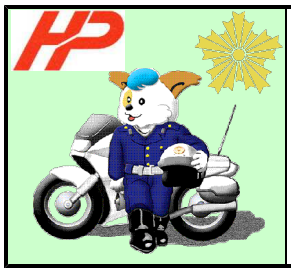


深川交通安全情報

ストップ・ザ・交通事故

令和６年１月３０日
深　川　警　察　署
交　　通　　課
Ｒ６年　第６号

身体機能の変化と運転 その1

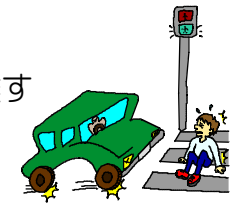
高齢運転者に多い事故

- ○　交差点での出会い頭･追突事故･右折時の事故が多い
- ○　買い物や通院などの運転による事故が多い
- ○　一時不停止･信号無視･安全運転義務違反が多い

→信号無視や一時不停止の割合が高いのは「過信」や「うっかり」などのミスが関係している

高齢運転者に多い運転特性

- ○　「相手が止まってくれるだろう」という判断の甘さがある
- ○　相手を早く発見しても、判断ミスで対応が遅れる
- ○　スピードは控えめでも、減速のタイミングが遅れる
- ○　遠くで相手を発見しておきながら、途中で相手から目を離す
- ○　危険に直面しても、アクセルから足を離すのが遅れる
- ○　相手を発見していながら、ブレーキを踏まない



→注意力の配分や集中力の低下、柔軟そして瞬間的な判断力の低下が関係している

視力と加齢

車を運転する際に大切なのが動体視力です。

動体視力が低下すると、距離感覚が不良になり、その結果

- **車間距離が取りにくく、追突事故を起こす**
- **車線変更が難しい**

など、日常的な運転に支障をきたす原因となります。

動体視力は、一般的にピークとなる20歳前後に0.8前後あったものが、徐々に衰え始め、40代からは急に低下していきます。

平均的な70歳以上の動体視力は0.1前後まで低下してしまいます。

また、視野角については一般成人で約200度あったものが、高齢者では160度まで狭くなってしまいます。

信号などを見落とさないよう、意識して上方に視線を向けましょう！
また、薄暗くなる夕方からは歩行者などを確認しにくくなるので注意して運転しましょう！